

## 地域イベントで学生が活躍

(社会連携推進機構)

6月27日(土)に行われたソーラーフェスティバル&エキシビジョンに、本学の学生が参加しました。リサイクル啓発イベント「くるるん・きたみ」と同時開催されたこの催しには、多くの市民が来場しました。

本学からは、13人の学生とバイオ環境化学科の岡崎文保准教授が参加し、「ソーラークーラーを使ったホットケーキ作り」や「廃ペットボトルを利用したソーラーカーの製作」等を指導しました。作ったソーラーカーでレースも行い、子供たちからは歓声が上がっていました。

6月28日(日)に開催された第48回おけと夏まつりには、本学の学生がボランティアとして活躍しました。今年は置戸町の開町100周年記念を兼ねて盛大に開催され、本学学生は人間ばんばレースの審判、投票券の確認や引換え係、さらに子どもお祭り広場などのスタッフとして、地元関係者と交流しながらおまつりの運営に貢献しまし

た。置戸町の皆さんからは、元気ある学生の力に感謝され、帰りにはたくさんのお土産をいただきました。

また、7月19日(日)に北見市香りゃんせ公園で開催された「第19回香りゃんせフェスティバル」にも、本学の学生が参加しました。会場の「ソーラーエネルギー実行委員会」ブースでは、水陸両用ソーラーカーの製作指導やエネルギー・環境についての説明などを4人の本学学生が行い、大いに活躍していました。

このような地域イベントへの学生参加は、大学の地域貢献の一環として、より活発になってきています。その活動は、少子高齢化が進む地域から、イベントの運営や活性化の上で大きな効果があると高く評価されています。今後も、学生や教職員が協力しあい、地域との交流やイベント等へ積極的に参加していきたいと思えます。



地域イベントに参画する学生たち